
ファンタジーワールドアドベンチャー

三原 小月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファンタジー・ワールドアドベンチャー

【Zコード】

Z5246Z

【作者名】

三原 小月

【あらすじ】

「ごく普通の一般人並の少女、歩

森林の中にそびえ立つ巨大な大木、その大木の下に穴が開いており、その穴からキラリとひかるものが、歩はそれを取ろうとするが、取った瞬間穴の中へと落ちてしまう。

たどり着いた世界は現界とは異なる未知なる世界だった。そこで歩が待ち受けるものとは？

そして歩は現界へかえることができるのか…？

第一章一話 穴に落ちた少女

自然に囲まれた小さな村、そこに住むとある少女のお話。

その少女の名は、進道歩、ごく普通の中学生一年生、特に特徴もなく髪は色は黒く、肩ぐらいの長さで一つに結んでいる。瞳は茶色、身長は学年の中で一番低い。よく学校で「おチビ」と呼ばれている。

歩の普段の一日は、朝起きて、身支度をし、母が作った朝食を食べる。そして自転車で学校へ登校。

放課後は吹奏楽部でフルートを担当している。今4月なので新入生に楽器の使い方を教えている。

そこまでは普通だった。

下校中、歩は神社へ寄り道していった。これは歩にとっていつも日課であった。

参拝はたまにするが。普段は境内を歩き回り、本殿近くの階段に座つてぼっことしている。

歩は神社の隣にある森林のこと気になった。その森林は、村の人や父母から「神社の隣にある森林には絶対に入ってはいけない。」といわれていた。その森林に入った人は一度も戻つてこられないといわれていた。実際に森の中に入った人はいるが、森林から戻ってきた人は1人もいない。

歩は今日好奇心で森林に初めて足を踏み入れる。

木々が大量にそびえ立ち、歩く道が険しい、転びそうにながらも、歩は森林の奥に進んでいった。

しばらくして森林の中心にたどり着いた、田はもう少しで暮れる
しまひ。

中心には巨大な大木がそびえ立っていた。

「うわーなんてデカイ木。こんな木初めて見た。」

歩はその大木に近づく。 大木に人が入れそうな穴が開いていた。
のぞいてみると、底が見えず、真っ暗であつた。
そしたら穴の中にキラキラ光るもののが引っかかっていた

「これぐらいの距離なら落ちずに取れそう。」

歩はカバンを置き、そのキラキラ光るものに手を伸ばす、匪きそ
うで匪かない。

落ちそうになりながらも光るものを取りうとする。

そしてその光るものを取つた次の瞬間！！

「アーニー、おまえの仕事は？」

誤つて穴の中へ落ちてしまつた。

大木には歩が置いていた、カバンだけが取り残されていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5246z/>

ファンタジーワールドアドベンチャー

2011年12月17日20時55分発行